

不退転

第 36 号
東江中学校
校長 神元 勉

合格おめでとう

■第2回漢字検定合格者(3級以上)

- 準2級 山城 珠鈴(3年) 玉村 紗耶(3年)
3級 金城 詩乃(3年) 諸山 沙如(3年)
親川優月華(3年) 島袋 寛星(3年)
金城 航稀(2年) 又吉 恒太(1年)

※4級に4名が合格

■第2回英語検定合格者(3級以上)

- 準2級 儀間亜未結(3年)
3級 比嘉 七星(3年) 篠田 大輔(3年)
金城 詩乃(3年) 島袋 萌(3年)
比嘉 紗希(3年) 津波 琴乃(3年)
親川優月華(3年) 島袋 礼於(3年)
尾淵 未空(3年) 伊波 樹春(3年)
金城 航稀(2年) 上地 悠太(2年)
芥川 理子(1年)

※4級に17名、5級に7名が合格



- ### 12月の主な行事
- 3日(木) 専門委員会
 - 4日(金) 全体集会, 職員集会
 - 5日(土) 地区新人総体 ~6日 (バレー, ソフトテニス, 卓球, サッカー)
 - 7日(月) 中央委員会
 - 9日(水) 生徒会長選挙, 成績交換
 - 12日(土) 沖縄県中学校総合文化祭 ~13日
 - 14日(月) 生徒アンケート実施
 - 15日(火) 三者面談 ~18日
 - 19日(土) 全九州卓球選手権大会 ~20日
 - 県吹奏楽アンサンブルコンクール ~20日
 - 22日(火) クリーン大会(ジャージ登校)
 - 24日(木) 全体集会
 - 25日(金) 二学期終業式
 - 生徒会役員認証式・引き継ぎ式
 - 26日(土) 県中学校新人野球大会 ~28日
 - 県新人バスケットボール大会 ~29日
 - 28日(月) 全沖縄学校音楽発表会

珍客 来校...

10月29日(木)に、中庭にシラスギが飛来してきました。珍しいです!!



ハロウィンが終わった11月2日(月)には、映画で話題の「ミニオン」が、突如エントラノスに現れました。24日付けのタイムスにも本校の取組が紹介され(裏面)、東江中は今、注目を集めています。



新嘗祭にいなめさい、しんじょうさいとは、収穫祭に当たるもので、十一月二十三日に、天皇が五穀の新穀を天神地祇でんしんちぎに進め、また、自らもこれを食して、その年の収穫に感謝する。



勤労感謝の日 昔は新嘗祭
勤労をたぐひ 生産を祝い 私達は学んでいることに感謝いじ
金城詩乃さんの11月の作品です。「勤労感謝の日」の歴史についても調べています。

自己肯定 促す指導

もいま 子ども

居場所づくり▽1

1面から続く

名護市立東江中学校(神元) 勉校長も羽地中と同様に「学びの共同体」の授業改革を進



英語の授業で学ぶ
合う生徒たち=13
日、名護市立東江
中学校

教室は支え合いの場

めている。13日の研究発表会では、2人の教師がチームで教える3年生の英語の授業が公開された。

グループ学習の時間には人気漫画のせりふを英訳するなどの課題が出された。授業担当以外の教師らが各班に付き、生徒同士が学び合う様子

を観察。授業後の検討会で「Aさんがほかの子を引っ張っていた」「B君が間違えてもいい表情をしていた」「孤立気味で諦めかけていたC君にDさんが声掛けして学びに戻す姿があった」などと細かく報告し、効果を検討し合った。

市教育委員会の学校教育特任アドバイザーを務める麻布教育研究所の村瀬公胤所長は「学びの共同体の学校づくりで特に重要なのが教師同士の学び合い。専門職として自分の仕事に誇りを持ち、互いに支え合うことで良い授業ができ、それが子どもたちの安心感につながる」と説明する。

言葉掛けに工夫

2年生の体育の授業では、体操着を忘れた生徒も制服でソフトボールに参加していた。通常は参加させてもらえないケースだが、「すべての子の学びを保障する」学校づくりの中では排除されない。かつて学用品をそろえられない子どもを放置し、ドロップアウトのきつかけになっていた時代があった。それを繰り返さないための試みだ。

神元校長は「自分に自信がなく先生に認めてもらえないと感じている状況では、積極

的に発言したり、学び合うことができるようにはならない。自分を大切に思う気持ちが高いと学習意欲も低下する」と話す。「自己肯定感の向上」を最重要課題に挙げ、教師の言葉掛けの工夫を促す。

学びを諦めない

東江中では1年前と比べ不登校の生徒が約3分の1に減った。同じく不登校を減らしている羽地中と共通するのは「学び合いの教室」と「安心できる居場所」があり、「ひとりぼっちの子を放置しない」という方針があることだ。

国内やアジア各地で授業づくりの助言に携わる村瀬さんは「不登校がなぜ増えるかという原因は複雑で、人によって解釈は異なるが、減らす方法は事実として二つの中学校が見せてくれている」と表現する。アドバイザーに就任した3年前と比べ「学びを諦めている子がいなくなった。どの教室でも子どもが安心して学んでいる」と評価する。

全国で授業づくりの助言に携わる静岡県の中江校長、佐藤雅彰さんは「表面では反発している生徒も、本当は見捨てられたくないと思っっている」と指摘。「学力向上の第一歩は分かりたいから教えて、という言葉を持たせること。一人一人の子を孤立させず、教師と仲間を支え合うことができれば、一人も見捨てない学校は可能だ」と話す。(特別報道チーム・田嶋正雄)